

東日本の記憶を次世代につなぐ
「宮城県岩沼市“千年希望の丘”体験ツアー」
報告書



国際ロータリー第 2510 地区



千歳セントラルロータリークラブ

国際ロータリー第 2520 地区



岩沼ロータリークラブ

1. 目的

千歳の将来を担う子供たちが、被災地を見て聞いて歩き、そして現地の中学生と交流することで、そこで何が起き、その後何が起きようとしているのかを、自分の五感で感じてもらいます。

そして子供たちが、千歳に居ながらにして“自分たちはいったい何を考え、何が出来るか”などを学習し、それぞれに考えるきっかけの場になることを期待します。

2. 旅行地

宮城県岩沼市、その他近郊

3. 期間

平成 25 年 10 月 11 日（金）から 12 日（土）まで 1 泊 2 日

4. 参加者

千歳市に在住する中学生 男子 3 名 女子 7 名 計 10 名

千歳セントラルロータリークラブ 会員の全行程同行者 4 名

千歳セントラルロータリークラブ 会員の別動サポート者 5 名 総計 19 名

5. 日程

1 日目	10 月 11 日（金） 7:00 集合 → 7:30 出発式 → 8:15 新千歳空港 出発
	9:25 仙台空港 到着 → 9:35 歓迎式 → カリヨンの鐘 見学（仙台空港） → 10:00 にしきや本店（㈱にしき食品） → 11:00 岩沼市玉浦中学校 → 13:30 岩沼市役所 表敬訪問 → 14:46「千年希望の丘」黙祷・献花 → 15:30 岩沼市、亘理町(荒浜地区)、山元町の被災地見学 → 16:00 山元町中浜小学校 見学 → 慰霊碑「千年塔」 → 17:00 山元町 JR 坂元駅跡 → 17:50 モンタナリゾート岩沼 到着（泊）
2 日目	10 月 12 日（土） 9:00 モンタナリゾート岩沼 出発 → JR 岩沼駅 → 9:30 津波よけ「千年希望の丘」植樹 → 10:20 岩沼市相野釜地区 見学 → 10:50 相野釜地区「メロンハウス」懇談会 → 12:00 竹駒稲荷 参拝 → 12:30 岩沼ロータリークラブ 例会出席 → 14:00 二木の松 → 14:30 日和山(ひよりやま)富士（名取市） → 15:00 カナダ・東北友好記念館（名取市） → 16:00 仙台空港
	17:40 仙台空港 出発（JAL2907 便） → 18:50 新千歳空港 到着 → 19:00 解散式

6. 主催

千歳セントラルロータリークラブ（国際ロータリー第 2510 地区）

7. 共催

岩沼ロータリークラブ（国際ロータリー第 2520 地区）

8. 後援

千歳市、千歳市教育委員会、千歳民報、㈱メディアコム

9. 旅行斡旋業者

㈱ノーススタートラベル 本社営業所

10. 行程報告

1 日目【10 月 11 日 金曜日】

午前 7 時 30 分 出発式

保護者の皆さん、千歳セントラルロータリークラブの会員、その他関係者が出発式に参加、見送りをして頂きました。

午前 8 時 15 分 出発

日本航空 2900 便にて新千歳空港を出発

午前 9 時 30 分 仙台空港到着・歓迎式

小野勉会長をはじめ岩沼ロータリークラブの皆さんに出迎え頂きました。生徒たちは緊張ながらも「よろしくお願ひします！」とごあいさつ。

午前 9 時 45 分 「カリオンの鐘」見学 (仙台空港)

東日本大震災の被災された方々を思い、一日も早い復興を願う心の表れとして、賛同した国内のロータリークラブが協力して、仙台空港にカリオン 15 鐘を設置した「カリオンの鐘」。到達した津波の高さと地震発生時刻「午後 2 時 46 分」の時計があります。

生徒達は実際に手を触れ演奏しました。

午前 10 時 にしきや本店 (株)にしき食品) 訪問

震災被害を受けた約 200 社が立地する岩沼市臨空工業団地、にしき食品も団地内で操業する企業です。震災後、たった約 1 か月半後に操業を再開しました。大震災で被災した多くの企業の中でも 1、2 を競う奇跡的な速さでの復旧といえます。

工場見学に訪れた生徒達にしき食品の方から「津波の第一波が仙台空港に達したという情報をラジオで聴いた瞬間、“とにかくスピードが明暗を分ける”と思い、全従業員に即刻、避難の指示が出されました。この即断により、150 名以上の従業員はすぐさま会社を離れ、家族のもとへ駆けつけました。海岸から約 2 キロ離れたこの地域に、高さ 1 メートルほどの津波が達したのは地震の約 50 分後です。



工業団地内にある企業の 9 割以上の従業員が残っていた中、にしき食品は全員が避難を終えていました。」と当時の状況を説明。そして、「浸水とライフラインの断絶によって稼働不能になった工場でしたが、3 日後には壊れた機械類に変わる設備や部品を大阪や四国で見つけて、1 週間ですべて揃えることに成功しました。団地内の企業と連携して、市や電力会社に交渉の末、震災 1 カ月後にライフラインが復旧すると、その 2 週間後にはレトルト食品の製造を再開することができました。幸い従業員とその家族に人的被害がなかったこともあって、4 月には工場の再稼働を宣言しました。それからみんなの力がひとつにまとまって、驚異的な速さで復旧に向かって走り出した感じです。従業員にとって会社は生きる術でもあります。」と話されました。生徒達が宮城に到着後、初めて訪れた被災現場、そして震災関係者の方から聞く現実の話を、生徒達は真剣に聞き入っていました。

午前 11 時 岩沼市玉浦中学校 訪問

校長の横橋健先生から 3 月 11 日の地震発生時点から復興の歩みの概要説明をお聞きました。この中学の生徒は 2 名が被災し亡くなっています。

横橋健校長先生からは、「3 月 11 日は本校の卒業式でした。昼までに 1、2 年生は下校していました。午後 2 時 46 分、卒業生と保護者、職員はランチルームで卒業を祝う会を行っていたところ、大きな揺れが襲ってきました。ラジオから大津波情報を聞き、全員に 3 階への移動を指示。地域の方々が続々と本校に避難してきたので体育館に誘導しました。また若手教職員は本校の展望台から海を監視しトランシーバーで連絡を取り合っていました。避難場所を 3 階にすることし駆けつけた市職員と共に体育館に誘



新千歳空港出発



仙台空港到着



カリオンの鐘 (仙台空港)

導した方々にも3階へ案内、また駐輪場で避難していた方々も誘導にあたりました。そのような中、監視していた職員から“松林の上を波が越えた ヤバイ逃げろ！”という声が聞こえました。」と、地震直後の様子をお聞きしました。



校長室にて校長先生から話を伺いました

そして、校舎は避難所として使用、避難所が解除されてからは支援物資供給の拠点となりました。「避難所となっていた頃は、本校の生徒たちが大変活躍し避難されていた方々のサポートに協力しました。また、学校再開に至るまで地域の方々や市内の教職員の方々の協力に助けられました。」と話され、「今日、来て頂いた千歳の中学生諸君は、より一層にご家族、友達への思いやりの心を豊かにし、そして命の大切さを再認識してもらい、自覚を持って中学校生活を楽しく過ごしてください」とも話されました。

校長先生からお話を伺った後、校内を見学し、昼食時にはランチルームで、岩沼中学校の生徒と共に給食を頂きました。

給食は全校生徒が一同にランチルームで頂きます。給食当番が配膳し、時間のチャイムに合わせ20秒間“背を正して沈黙”。その後、代表生徒から千歳の中学生、千歳セントラルロータリークラブを紹介、そして今日の連絡事項があり、一同手を合わせて「いただきます!」。整然と騒々しくならない程度におしゃべりを楽しみながらの給食時間です。千歳の中学生たちも整然とした在校生の様子に「すごい・・・」と感心した様子。



校長先生と一緒に撮影



ランチルームで給食



給食のメニューは、あたたかな“コシヒカリ”と八敗汁にチキンのクリーム煮、そして千歳セントラルロータリークラブの自家農園で穫れた南瓜。

午後1時30分 岩沼市役所 表敬訪問

岩沼市役所を表敬訪問しました。生徒達から「2日間、しっかりと学習します。」と挨拶。菊池哲夫岩沼市副市長からは、「ようこそ岩沼にいらっしゃいました。被災地の状況を見て、地元の方々と交流を重ね、岩沼市での思い出を心に刻んでください。」とお話されました。



副市長と記念撮影



千歳セントラルロータリークラブから岩沼市千年希望の丘復興整備寄付へ寄付金を寄贈

また、千歳セントラルロータリークラブ

から岩沼市の「岩沼市千年希望の丘整備復興寄付」に寄付金を手渡しました。千歳セントラルロータリークラブが新千歳空港国際線ターミナルビルに設置・管理している“募金箱”の浄財の内、平成25年7月からの1カ年間の日本円全額を寄付することとしています。

午後2時46分 犠牲になった方々へ黙祷・献花

11日は東日本大震災で犠牲になられた方々の月命日です。

“千年希望の丘”から海に向かって黙とう、献花を行いました。午後2時46分、生徒たちは静かに海に向かって黙とうし、一人一人献花し、犠牲になった方々のご冥福を祈り、手を合わせていました。



青葉中学校 3 年の高橋知衣那 (15)「実際に被災地を訪れ、テレビで見ていた被災地の印象とはまったく違う思いを感じた。そして、この場所に来て犠牲になった方々のことを思うと心に痛みを感じました。この思いを千歳に帰ったら必ず伝えたい」

※ 玉浦中学校を訪問、黙祷・献花の様子が、NHK 仙台放送局「てれまさむね」(11 日午後 6 時 10 分～) の番組内で放送されました。

午後 3 時 30 分～午後 5 時 亘理町荒浜地区、山元町 見学

亘理町では 257 名の方々が犠牲になり 3 名の方々が今なお行方不明です。特に大きかったのが荒浜地区です。荒浜地区は阿武隈川の河口に位置し、壊滅的な状況になりました。

生徒たちは、車中から目の前に広がる住民が暮らしていた痕跡がわずかに残る荒地を、ため息をつきながら見入っていました。



山元町中浜小学校

その後、山元町に移動し、校舎の屋上に避難し 59 名の児童の命が救われた山元町中浜小学校に向かいました。中浜小学校は海岸から約 300m の場所に位置します。校舎は壊滅的な被害を受け、現在は閉校となり山元小学校に統合されています。



特別に中浜小学校の内部を見学

中浜小学校北側に「鎮魂碑“千年の塔”」が建っています。

生徒たちからの質問に岩沼ロータリークラブの方から説明がありました。「小学校の周りにはたくさんの住宅がありました。その殆どが津波で流されてしまいました。一部の住民は小学校に避難しましたが、大勢の人たちが津波の犠牲になりました。この小学校に通っていた児童の家族もたくさん含まれています。鎮魂碑は犠牲者の方々のために建てられています。」



慰霊碑に手を合わせる生徒たち

説明を聞いた生徒たちの中には、目に涙を浮かべる者もいながら鎮魂碑、その傍らに建てられた 137 人の犠牲者の名前が彫られた慰霊碑に線香をあげ手を合わせていました。

午後 5 時 山元町 JR 坂本駅跡

常磐線で最初に宮城県にあった駅が坂元駅でした。

駅施設及び線路が流出しており、駅前にあった商店も津波の影響で流されました。

現在はホームの跡が残るだけになっています。



2 日目【10 月 12 日 土曜日】

午前 9 時 30 分 津波よけ「千年希望の丘」植樹

岩沼市では海岸地域に「津波除け千年希望の丘」を作る計画を進めています。これは、高さ 10～20m の小高い丘を何重にも築き、丘の高さと樹木によって津波が来たときのエネルギーを減じて、住宅や工業団地などを守るものです。

ガレキ等を活用して作りますが、その丘に植栽などを行い、この大津波の痕跡や被災者の想いを後世に伝え、さらに集落跡地などの遺構の保存による震災の記憶や教訓を国内外に発信するメモリアル公園と防災教育の場として整備を進めています。



今回、岩沼市を訪問した千歳の中학생たちは、「千年希望の丘」の植栽の一部として 20 本のヤマザクラの植樹を行いました。

千歳中学校 2 年の谷駿之介 (14)「被災地に来て被害の大きさに驚きました。地元の人達は頑張っていますが、復興はまだまだ進んではいません。津波除けの千年希望の丘の植樹作業に参加できたことで、復興への思いを強く感じました」

午前 10 時 50 分 岩沼市相野釜地区「メロンハウス」懇談会

岩沼市の仙台空港のすぐ東側に相野釜 (あいのかま) という集落があります。津波によって 109 戸の集落の建物は全て流され、集落は消滅し、今は建物の基礎しか残っていません。ここに相野釜ハウス園芸組合という農事組合があり、100 棟以上のハウスが建ち並び、メロンとトマトを栽培していました。全て流されました。震災後、ロータリークラブなどの支援を受け、ビニールハウスを建てて、相野釜メロン (岩沼ブランドメロン) の復活を目指しています。



組合長の穴戸繁さん

相野釜ハウス園芸組合の副組合長の沼田健一さんは、「ロータリークラブをはじめ国内だけでなく、海外からもご支援をいただきました。津波で、今まで使っていた農機具も全て流され、マイナスからのスタートでしたので、とてもありがたいと感じています。また、金銭的な支援以外にも、ボランティアとしてお手伝いをしていただいたり、出荷用段ボールのロゴをデザインしていただいたり、いろいろなご支援をいただいています。再開して、初めて栽培したのはカブでした。収穫したカブは、たくさんの方のご支援によって農業を再開できたという感謝の気持ちを含めて、岩沼市の仮設住宅に住んでいる方々に配りました。収穫数が少なかったため、一束ずつしか配ることができなかったのですが、皆さんにとっても喜んでもらいました。今はメロンとトマトを栽培しています。主に男性がメロンを、女性がトマトを担当しています。6 月上旬



真剣なまなざしで聞き入る生徒たち



旬に収穫したメロンは、私たちの栽培技術を集結させた糖度の高いおいしいものになりました。6 月下旬には、「クールボジャメロン収穫祭」をしましたが、ご支援をいただいた方々からたくさんの注文をいただき、収穫した数に追いつかないほどの人気でした。うれしかったですね。相野釜地区は、何事にも一丸となって取り組むのが伝統でした。震災直後には、地区の住民がこれからどうするかということをもすぐに考え始めたのです。さまざまな状況を想定しながら、数え切れないほど話し合いを重ね、ここまで来ました。だから、これから農業を続けていく上でも、仲間としっかり話し合い、一枚岩となって頑張っていきたいと思います。また、前進するために復興へのさまざまな支援制度も活用しようと思っています。収穫量はまだまだ少ないですが、前向きな気持ちで少しずつでも進んで行きたいです。」などと話され、組合長の穴戸繁さんからは、

「北海道からもこんな小さな子供たちが応援に来てくれました。元気が出ます。ありがとう！」と生徒たちに笑顔でご挨拶頂きました。

正午 12 時 竹駒稲荷神社 参拝

昨日から体験学習の連続でしたので、ここで少しだけ観光気分。



竹駒稲荷は、承和9年（842）、小倉百人一首で有名な後の参議小野篁（おののたかむら）卿が陸奥守として着任した際に、奥州鎮護を祈願して創建されました。日本三稲荷のひとつに数えられ、現在では年間 160 万人の参詣者が訪れます。境内では、市の文化財に指定されている向唐門や、江戸の秀作とうたわれる二層の随神門を仰ぐことができます。

生徒たちは、思い思いにお願いごとをし、おみくじを手にし、昨日からの緊張感から解かれた様子でした。「何を願ったの?」、「被災し

た人たちが幸せになるようにお願いしたよ」。

午後 12 時 30 分 岩沼ロータリークラブ 例会出席

今回お世話になった岩沼ロータリークラブの例会に出席しました。

向陽台中学校 3 年生の和泉舞子（15）「始めは修学旅行のつづきのような感じで体験ツアーに参加しましたが、被災地を見て、地元の方々から話を聞くうちに震災は地元だけの出来事ではなく私たちにも関係のあることと思い始めました。私たちは絶対に今回の震災を忘れてはいけないのだと思いました。千歳に帰ったら学校、友達、家族に伝えようと思います。岩沼ロータリークラブの人達にはいろいろお世話になりました」とお礼の挨拶。



午後 2 時 名取市“日和山” 見学

東日本大震災の津波被害が甚大だった名取市閑上（ゆりあげ）地区を一望できる日和山（ひよりやま）。頂上には二つの神社が鎮座します。震災前から日和山にあり、海を守る弁天様を祭る富主姫（とみぬしひめ）神社と、地域の氏神様として信仰があり、震災後に遷座した閑上湊（みなと）神社。



午後 5 時 40 分 仙台空港 出発



11. 報告会

- 日時 11月5日火曜日 午後6時00分
- 会場 THE BELLCLASSIC Lien (千歳市錦町4丁目9)
- 出席 参加生徒、生徒保護者、千歳市教育委員会、参加生徒在籍中学校、千歳青年会議所、ロータリークラブ関係者、主催者

12. 参加生徒感想

千歳中学校 1年 岩淵 光理

私が岩沼市に行って感じたことは、約2年半もたっているのに、元の生活に戻っていなかった事です。とても胸が痛かったです。

なぜなら、人々は自由な生活をしていないからです。仮設住宅に住んでいる人、家族や友達が亡くなって辛い思いをした人など、私達には、経験したことのない辛い思いをしたと思うからです。津波は、物だけでなく、人々の幸せも奪ってしまったのです。

今回、海の近くの小学校に行くと、小学校の中はぐちゃぐちゃ。辛い生徒は、全員無事だったそうですが、家などを流す津波の恐ろしさを実感しました。

テレビを見ているだけでは分からない、現状を私達は見てきました。そこで見てきた事を千年先まで伝えていく義務があると思います。

今回、私は「協力」の素晴らしさを学びました。もっと協力して元の生活に戻れるようにしたいです。

千歳中学校 2年 津坂 真優奈

「宮城」

私は、宮城に行って色々な体験をしてきました。

自分が思っているより復興がされており、何より安心しました。でも、まだそのままの建物があり、津波の恐ろしさを実感しました。

私が一番衝撃を受けたのは、小学校です。その小学校は、津波がきてからそのままにしてある小学校です。壁がなく、泥などが付いていました。その小学校は、全員が屋上に登って全員が助かったそうです。それを聞いて、良かったなあと思いました。もちろん、安心ばかりではありません。中学校に訪問して、校長先生の話の話を聞いていると、だんだん悲しくなってきました。その中学校では、生徒2名が亡くなったそうです。これを聞いて、私は悲しい気持ちになって、改めて津波の恐ろしさを実感しました。

そして、千年希望の丘では、まだまだ作業が続くそうです。私は千歳から応援しています！！

これらのように、私はたくさんの経験をしてきました。津波の恐ろしさも学びました。

今回、このような貴重な体験ができたので、また、こういう機会があれば参加したいと思います。

千歳中学校 2年 谷 駿之介

僕は、今回の体験学習のすべてが衝撃でした。

まず、仙台空港を出てバスへと向かっている時に見た津波の到達位置です。仙台空港は、海から1km以上離れた場所にあります。それにも関わらず、2m近い位置まで津波がおしよせたそうです。そこでようやく僕は、東日本大震災で被害を受けた場所に来たのだという実感が湧きました。

仙台空港を出て、バスで移動の時に海側の方に目をやると、そこには何もありませんでした。あの地震が起きるまでは、集落があり民家が建ち並んでいたそうですが、そんな面影もなく一面、雑草が生えているだけでした。僕はテレビなどで見てきたのは、津波が押し寄せて民家を飲み込んでいる様子や、建物などの残骸の山が無数に広がっている様子だけで、現在の状況は全く分かりませんでした。僕は、もっと瓦礫がたくさんあるものだと思っていたのですが実際、瓦礫は今年の夏までに99%処理し終わっていたそうで、今は震災後にできた海岸沿いの瓦礫の処分場も撤去が始まっているそうです。

その日の午後、海からわずか300mしか離れていないにもかかわらず一人も死者を出さなかった中浜小学校を訪れました。その小学校は、どこか異質な感じがしました。小学校の周りというのは町の中の住宅街が広がっているような所にあると思いますが、この小学校の周りも雑草だけでした。津波は、なんと小学

校の二階部分まで押し寄せたそうです。およそ 6~7 メートルの波がきたのだと思います。学校の中に入ると、ぞっとしました。全身がざわざわして心地悪い感じでした。中は、見るも無残な姿になっていました。教室だった所は、黒板はなくなり、戸もとれ、窓もありません。見ただけで悲しかったです。でも、この中浜小学校は、これからも残していくべきだと強く思います。地震や津波の被害があったことを忘れてはいけないし、伝えなければならないので、こうした被害にあった建物を残すことができたらいいなと思います。僕は、この他にも様々な場所を見学してきました。その中であの東日本大震災という大きな困難を乗り越えることができたわけを、自分なりに考えることができました。それは、「つながり」です。みんなが、「助けたい、復興したい」と強く願い、思いが一つになったことで、心が通じ合い復興できたのだと思います。しかし、現代の人々はそんな「心のつながり」を忘れがちです。思いやりのない悲しいいじめも起こっています。僕は、そんな現代の風潮に流されず、周りとのつながり、ちょっとした人との関わり合いを大事にしていきたいと思います。

青葉中学校 3年 高橋 知衣那

私は今回の経験を通して沢山の事を学ばせてもらいました。

その中でも、特に心に残った事は、山元町中浜小学校を見学した事です。

時が止まったような感じで、言葉では言い表す事ができない気持ちになりました。

全員が助かった事は、本当にすごい事だなと思いました。

被災地の方は今を生きています。

悲しい過去と向き合いながら、今を笑顔で暮らしています。私たちに関係のない事では決してありません。

私たちは今、直接的に復興の手助けはできませんが、決して忘れない事。少しでもできる事を考える事。

それだけでも変わるのではないのでしょうか。日本国民全員の問題です。

私は今回、このツアーに参加して貴重な体験をさせてもらいました。本当に良かったと思っています。どうもありがとうございました。

富丘中学校 1年 稲井 優子

「体験ツアーをとおして」

宮城県岩沼市に行きました。仙台空港に着き、バスでいろいろな場所をまわりました。

まず、最初に私が思ったことは、町を見渡すと工事をしている所が非常に多いと思いました。そして、がれきは思った以上に多くなく少し安心しました。

海のそばにある小学校に行きました。海の近くなので津波の被害が大きく、どこに何があったのか、など跡形もなくなっていました。

お昼ごはんは、玉浦中学校のみなさんと一緒に給食を食べました。とてもおいしかったです。

千年希望の丘に行きました。がれきで出来ているとは思えないくらい立派でした。千年希望の丘にみんな木を植えました。少し大変だったけどとてもいい経験になりました。

この体験ツアーをとおして、今の被災地の様子が、よくわかりました。そして津波がきた時のことがテレビで見るよりも、被災者から聞く方がより伝わってきました。これからは、被災地の人達のことを忘れずに過ごしていきたいです。

富丘中学校 2年 牧野 絵里

今回の一泊二日から戻った後、あまりの現実に私は体調を崩し、一週間寝込んでしまいました。一泊でさえこんなことになるのに、これが一瞬で起きて、何日も何カ月も避難生活をしている方が大勢いるのかと思うと、本当に辛いです。

今回、被災地を訪れ、テレビや新聞と比べて感じたことがありました。被害を受けた範囲です。岩沼市はだいたい、市の半分が津波の被害を受けましたが、テレビを見ていた私は、市全体、県全体がテレビの映像のようになっているのだと思っていました。報道だけではわからないけど、実際に行き、自分で見てわかることもあるのだと実感しました。

千年希望の丘から見たきれいな海が、津波となって襲ってきて、沢山の人が犠牲になったということもとて

も胸が痛みました。

私たちが訪れた玉浦中学校では、震災当時、もちろん今も、中学生がボランティアに積極的だったそうです。自分たちも困っているはずなのに、大人ですら混乱してしまうなか、自分たちができる事を見つけ、行動に移すことができるのはすごいと思いました。同じ中学生として、見習いたいと思います。思っているだけでなく、行動に移す勇気を教えてもらいました。

東日本大震災は、全ての人々にとって本当に辛く悲しい出来事でした。しかし、学べたこともたくさんあると思います。みんなで助け合い、感謝の心・絆を大切にして、一つでも沢山の「ありがとう」を言ってもらえるように頑張ります。

今回ツアーに参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

北斗中学校 2年 坊野 涼太郎

「震災を見て」

二日間の体験ツアーが終了して、三週間以上がたちました。二日間の体験は今でも鮮明に感じています。僕が実感したのは、被災にあった人の苦しみや悲しみです。今でも仮設住宅に暮らしている人は少なくはありません。その事を知ったのは、体験ツアー一日目の玉浦中学校の訪問の時です。津波の被害を受けた中学校の一つで、二人の生徒がお亡くなりになられたと聞いて、自分では衝撃を受けました。その後、他の生徒は作文で「頭が真っ白になった」と書かれていました。それは、津波で家がぐちゃぐちゃになってしまっている事でした。そのため、家がなくなった生徒は仮設住宅で暮らしています。当たり前であった事が出来なくなるというつらさはどれだけ悲しいか。身にしみて分かりました。

千年希望の丘では、この震災でお亡くなりになった人に花束をあげました。他にも植樹活動をしました。海には堤防がありました。しかし、陸側は津波の災害を受けていて焼け野原みたいになっていました。他には廃校となった中浜小学校を見ると、厚さ十五センチ位はあるガラスも粉々で、壁ははがれ落ち、天井は穴が開いていました。

この体験を通して、津波は想像を絶する恐怖だという事が分かり、およそ三分の間にどれだけの人が亡くなったか自分の目で見て実感しました。

被災地が一日でも早く復興できるよう心から願っています。

北斗中学校 3年 住吉 顕伍

今回、この体験ツアーで宮城県に行って、まず思ったことは、空港を出てすぐの津波が来た高さを見て、もし自分がここにいたらと思うと怖くなりました。

二日間という短い時間でも感じる事がたくさんあり、特に海の近くにあった小学校が印象に残っています。

希望の丘から見た景色は、家があったと思われる場所などがあり、津波の強力がわかりました。

このツアーに参加してたくさんわかったので、いい体験ツアーになったのではないかと思います。

向陽台中学校 2年 藤田 あさひ

「実際に行って・・・」

私は宮城県に着いた時、まだ宮城県にいるという実感があまりありませんでした。しかし、玉浦中学校の校長先生や市役所の人のお話を聞いたり、千年希望の丘に木を植えたり、被災して今は使われていない中浜小学校の校舎の中を見たりし、被害の大きさをあらためて自分の目で見て感じました。

特に印象に残っているのは、やはり海岸近くにあった中浜小学校の校舎の中です。学校の中には、津波で流されてきたものや学校で使っていたと思う机や楽器などが散乱していました。

私は、被災地の今の状況を自分の目で見て、たくさんのお話を学びました。家族がいる喜び、何不自由なく暮らしていることなど、他にも色々なことをたくさん学びました。

これからは宮城県を始め被災した人のことを思いながら、生活していきたいです。

向陽台中学校 3年 和泉 舞子

「宮城県岩沼市で学ぶ」

今回の体験ツアーでは、まだ災害の後も少し残っていた場所などを見させていただき、たくさんの経験をすることができました。

まず思ったことは、震災の時の津波などの影響があったのに、瓦礫などがほとんど落ちていなかったことに驚きました。だけど、家が建っているのに、壊れている家が多く、その周りには家が全然なく草原が広がっていました。立っている大きな建物には、津波がどこまで来たか印がついていました。もっと、津波が小さいと思っていたので、私の何倍以上も津波がきていたことにびっくりしました。

千年希望の丘では、植樹活動を初めてやり、大変だったけど、その木がこれから大きくなり、津波に耐えて宮城県を守るものになってほしいです。

最後に、玉浦中学校の校長先生や岩沼ロータリークラブの方々が出て、「命を大切にする」ということをこれから考えていきたいと思いました。

一緒に行った皆、千歳セントラルロータリークラブの方々、ありがとうございました。

13. 主催者概評

最初に、関係者、各関係団体のご協力の下、事業を成功裏に終えることができました。深く御礼を申し上げます。

千歳セントラルロータリークラブは、東日本大震災発生後の1年後にあたる2012年3月11日に千歳ロータリークラブと共に復興支援事業としてチャリティーイベントを開催し、100万円の収益金を千歳市に避難されていた避難者の方々へ県人会を通じお渡しすることができました。以後1年間に亘り、「今私たちができること」とは何なのかと、宮城県の岩沼ロータリークラブの協力を頂きながら検証を進めて参りました。そして、今から1年前に「東日本大震災の記憶を次世代につなぐ」ことが重要であることと認識し、今回の事業を立案し、計画するに至りました。

当初は、10代前半の子ども達を被災地に連れて行き、果たしてどれだけの成果があがるものかと不安に思うこともありましたが、参加する子ども達を募集するにあたり応募してきた子ども達が書いた「参加動機」の小作文を読み、事業の成果を主催者側が思い描くことは間違いなのだと気づかされました。小作文には、子ども達のそれぞれの被災地への思いが書き描かれていました。主催者側が、意図してこのようなことを被災地訪問することで学習してほしいとする感慨は必要のないことです。

子ども達が自分たちの五感で感じ入ってもらうことが何よりも必要なことなのです。

今回の事業での行程は、岩沼市玉浦中学校への訪問・交流、月命日にあたる日時に献花、“千年希望の丘”での植樹をお願いし、すべて地元の岩沼ロータリークラブの方々へお任せしました。

私たちがメディアで知る被災地の情報から計画立てるのではなく、被災者である岩沼ロータリークラブの皆さんをお願いすることが、子ども達への主催者からの唯一の伝言であります。

参加した子ども達は、最初のうち初めての環境と被災地の現実を目の当たりにした緊張感で、表情が硬いままでしたが、被災地を見学し、地元の方々の話を聞くうち、その表情が変わり真剣な眼差しへと変わっていききました。

地元のマスコミからのインタビューにも打合せなしで、自分たちが感じたありのままの被災地への思いを語るようにまできていました。

11月5日に行う「報告会」では、それぞれの子供達が“感想文”を発表することになっており、被災地を訪れた子ども達の思いは、その場で聞くことができ、最終的な概評はその後になりますが、体験ツアーを終えた今思うことは、わずか1泊2日の日程ではありましたが、子ども達は確かに東日本大震災の記憶をつなげてくれるはずと確信しています。

今回、民間の奉仕団体である私たちが、本事業の実施にあたりましたが、是非に千歳市の中学生の全員が被災地を訪問して頂きたいと思います。

近年、千歳市の中学校の修学旅行は、東京ディズニーランド、京都、奈良などを訪れていると聞きます。楽しい級友とのレジャー、日本の古式文化に触れることは間違いだとは言いきれませんが、果たしてそれが中学生の修学旅行の訪問地としてタイムリーなのかと言うと、疑問を感じます。

被災地のガレキ等は排除され、行程を慎重に計画立てると、何の危険も今やありません。今回の事業でそれは実証されました。

ここ約 10 年間は、子ども達だけが対象ではなく日本人誰もが訪れるに値する地域です。

是非、千歳市の中学校の修学旅行先として考えて頂きたいと切に願います。

最後に、今回の事業主旨に興味を持ち、理解して頂き参加してくれた子供達、そしてご協力頂いた保護者の皆様にお礼を申し上げます。

そして、子ども達には今回の体験ツアーで感じた感覚を大切にして、ふるさとを思う気持ち、人への思いやりの心を持ち、元気に成長して頂けますよう願っています。

ありがとうございました。

平成 25 年 11 月 5 日

[報告者]

千歳セントラルロータリークラブ

会長 武田 伸也

社会奉仕委員会 委員長 松坂 敏之

〒066-8520 千歳市本町 4 丁目 4 番 ホテルグランテラス千歳

TEL.0123-26-5788 FAX.0123-25-9112

E-mail. membership-office@ccrc.jp

10月、岩沼市に体験ツアー 千歳セントラルRC 中学生の参加者募集

千歳セントラルロータリークラブ(RC)、武田伸也(会長)は、宮城県岩沼市で東日本大震災復興

と防災の見地から計画している「命を守る防潮堤―千年希望の丘―現地にて行く体験ツアー」を10月30日まで受け付ける。同RCは、震災1年後の2012年3月11日に支援イベントを千歳RCと共催で開き、被災地から千歳市への避難世帯に県人会を通して収益金を寄付。さらに同RCの農園収穫物を岩沼市に持ち込んで中学校の運動会の食材にし、現地の人たちと交流してきた。



「千年希望の丘」植樹祭＝今年6月、岩沼市

で」との声が多く聞かれたことから、千歳の次代を担う中学生を連れての

地を見て聞いて現地の中学生と交流し、そこで何が起き、その後何が起きようとしているのかを、自分たちの五感で感じてもらいます。そして、子どもたちが千歳に居ながらにして、「自分たちは何を考え、何ができるか」を考えるきっかけの場を提供したいと思います。

千歳セントラルロータリークラブからのお知らせ

宮城県岩沼市「千年希望の丘」体験ツアー参加者募集

千歳の将来をになう子どもたちが、被災地を見て聞いて歩き、そして現地の中学生と交流することで、そこで何が起き、その後何が起きようとしているのかを、自分たちの五感で感じてもらいます。

そして、子どもたちが千歳に居ながらにして、「自分たちは何を考え、何ができるか」を考えるきっかけの場を提供したいと思います。

日程 2013年10月11日(金)～10月12日(土) 1泊2日

対象 千歳に在住の中学生で、被災地に関心がある男女10名

訪問地 宮城県岩沼市、その他近郊

参加費 お一人5000円

※宿泊費(1泊4食)、交通費、現地移動費、旅行保険料は、千歳セントラルロータリークラブが負担。それ以外は、参加者実費負担となります。

※ツアー参加者を対象に、保護者にも出席していただき、9月29日(日)に事前学習・説明会を実施します。

応募方法 応募者氏名(フリガナ)、生年月日、性別、住所、中学校名、保護者氏名、電話番号(日中連絡可能)をご記入いただき、「参加動機」の小作文(約400字以内)を同封の上、封書にて以下までお送りください。なお、応募には保護者の同意が必要となります。

応募期間 8月30日(金)必着

☎・申込

〒066-8520 千歳市本町4丁目4番 ホテルグランテラス千歳1

階 千歳セントラルロータリークラブ

「岩沼市千年希望の丘体験ツアー」係

☎26・5788 (10時～15時、土日祝休業)



2013年8月23日 生活情報紙ちゃんと

中学生10人被災地に派遣

【千歳】地域での奉仕活動などを行っている「千歳セントラルロータリークラブ」（武田伸也会長）が10月、東日本大震災の被災地へ千歳市内の中学生10人を初めて派遣する。被災地の今を見つめ、そこで暮らす人々の思いを千歳の子どもたちにつなぐ。（鈴木誠）

10月に宮城・岩沼 見学や交流

千歳市教委によると、市内の中学生だけを対象にした被災地への派遣事業は初めて。事業は、10月11、12日の2日間、宮城県岩沼市とその近郊で、現地の中学生らとの交流や、がれきを活用した津波よけ「千年希望の丘」を見学する。千歳セントラルロータリークラブは昨年10月、岩沼市のロータリークラブの協力を得て、現地を視察。その際、岩沼側から「次世代の子どもたちに震災で家族や友人を失った思いや、いま頑張っている被災地の姿を伝えたい」と要望があり、今回の派遣を企画した。武田会長は「目で見て、耳で聞いて、触れて、子どもだからこそ感じ取れるものがある。被災地の思いを記憶して、自らの成長につなげてもらいたい」と話している。

「成長につなげて」

千歳セントラルロータリークラブは、事業に参加する中学生を募集している。対象は千歳市内に住む中学生で、参加費は5千円。申し込み方法は、①氏名②生年月日③性別④住所⑤中学校名⑥学年⑦保護者氏名⑧電話番号と、参加動機を書いた作文（400字以内）を、〒066・8520 千歳市本町4の4、千歳セントラルロータリークラブへ郵送。締め切りは8月30日（必着）。申し込み多数の場合は、募集時の作文で選考する。問い合わせは同クラブ ☎26・5788（平日午前10時～午後3時）へ。

にわ 所に 新聞 晶 浴び ント 收藏 物館 が見 1時 頃 喜 たり オー ンタ 災翌 日に の第 書か 子が は上 で、 十円 。表は たち のた が詰 な

を申し 能の便 くれ、信頼回復へ向けて あった。

千歳セントラルロータリークラブ派遣 中学生、被災地へ出発

「できることを考えたい」

【千歳】千歳セントラルロータリークラブ（武田伸也会長）の派遣事業で市内の中学生13年生10人が11日、東日本大震災で被災した宮城県岩沼市へ出発した被災地への派遣事業は初めてで、同クラブと交流がある岩沼

両親に見送られて宮城県岩沼市へ向かう中学生



ロータリークラブも協力する。一行は11日に岩沼市玉浦中で現地の中学生と交流。12日に震災のがれきを利用して造られた津波よけの高台「千年希望の丘」で植樹をする。

出発を前に新千歳空港で、千歳中1年の岩淵光理さんは「震災の時には募金活動を行った。岩沼の現状を見て、今できることは何か考えたい」と話した。（鈴木誠）

2013年10月12日 北海道新聞

第25488号（日刊）

2013年
10月12日

発行所：北海道新聞社
札幌市中央区大通西2丁目
〒060-0811 電話：011-221-0111
www.hokkaido-nippo.jp

読者センター
011-210-5888

ご購読申し込み
0120-464-104

北海道新聞



「千年希望の丘」の上で献花する中学生たち

海へ黙とう 犠牲者悼む

北海道の中学生、岩沼訪問

千年希望の丘

東日本大震災の発生から2年7カ月がたった11日、岩沼市が市沿岸部に造成を進める人工丘「千年希望の丘」で、北海道千歳市の中学生10人が震災犠牲者を追悼した。地元ロータリークラブが企画した被災地見学ツアー

つながる

アーに応募して訪れた。地震が起きた午後2時46分、丘の上で海に向かつて黙とうをささげ、白いキクの花を手向けた。岩沼市では震災で150人が死亡・行方不明になった。福島市に祖父母がおり、震災が人ごとと

思えなかったという千歳市青葉中3年の高橋知衣那さん(15)は「被災地を見て被害の大きさが実感できた。地元に戻ったら、今も大変な思いをしている方々がいることを伝えたい」と話した。一行は11日から1泊2

滝
秋田県
N
います。
町の還暦野球チームで監
年半前に新築したばかりで
支援を

7583件
80円

河北新報

10月12日(土)

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28
(郵便番号 980-8660)

2013年10月12日 河北新報

被災地の現状、実際に見て

千歳セントラルRC

千歳の中学生と宮城県ツアー

千歳セントラルロータリー
クラブ(RC、武田伸也会長)
はこのほど、宮城県岩沼市「命
を守る防潮堤」千年希望の
丘」を千歳市内の中学生と訪

れる体験ツアーを行った。東
日本大震災からの復興と防災
面で計画している防潮堤を見
学し、被災地の現状や復興の
様子を現地地で体感させた。11
月5日に報告会を開く。

同RCの被災地・被災者支
援活動の一環。これまでの交
流を通じ現地から「被災地の
今を見て」「次世代に震災の記
憶をつないで」との声が多か
ったことから、千歳の次代を
担う中学生の現地ツアーとな
った。今回は、学校の秋休み
を利用して今月11、12の両日、
市内中学生10人が参加した。

初日は、新千歳空港から仙
台空港に着いてすぐ歓迎式と
カリヨンの鐘見学。引き続き
岩沼市内に入り、被災した臨
空工業団地、玉浦中学校、市
役所を訪問。千年希望の丘で
は黙とう、献花をした。この
後も慰霊碑や被災跡地などを
見た。

2日目は千年希望の丘で植

樹した後、岩沼市内の被災や
復興の様子を見学して回り、
現地の人たちと懇談や交流を
した。

臨空工業団地では、被災企

業のうち奇跡的に復興した、
にしき食品を見学。地震発生
時もち早く避難し、その後
の復旧でも社内一丸で、関係
機関とも素早く連携して取り



「千年希望の丘」を訪れた千歳市内の中学生

組んだとの説明を、参加した
中学生らは真剣に聴いてい
た。また、玉浦中では、生徒た
ちが給食の前に20秒間の黙と
う。整然とした様子に千歳か
らの中学生は感心していた。

武田会長は「千歳の将来を
担う子供たちが被災地の中学
生と交流し、五感で感じても
らえたのでは」と説明。11月
5日午後6時45分から市内錦
町のベルクラシッククリアン
(平安閣)での同RC例会で
参加した生徒、保護者、市教
委にも出席してもらい報告
会を予定している。

The Chitose Mimpo

2013年(平成25年)

千歳民報

10月22日

火曜日

日本経済新聞社(株)発行(198000)

2013年10月22日 千歳民報

「行動する勇氣見習う」

千歳セントラルロータリークラブ派遣

中学生が被災地体験報告

【千歳】千歳セントラルロータリークラブ（武田伸也会長）の事業として、東日本大地震で被災した宮城県に派遣された市内の中学生たちの報告会が5日、ベルクラシック・リアン・平安閣（錦町）で開かれた。中学生たちは震災から2年7カ月が経過した被災地のいまを肌身で感じたことを基に、「震災を決して忘れず、少しでもできることを考えたい」と、それぞれの思いを語った。

派遣は次世代を担う12日、宮城県岩沼市津波で廃校となった小学校を見て、千歳中の子供たちの成長の糧にとその近郊の津波で流された小学校や操業の谷駿之介君（2年）と同クラブが初めて実施された小学校や操業の谷駿之介君（2年）は「周りの住宅がなくなり、校舎だけが残り、



被災地で感じたことを報告会で発表する中学生

津波で廃校となった小学校を見て、千歳中した」と率直な感想を述べた。

（鈴木誠）

震災を経て操業を再開した同市の食品工場を訪問した経験から、青葉中の高橋知衣那さん（3年）は「私たちの中では過去になりかけているけど、被災地の人はいま頑張っている。まずは学校のクラスの友達へ伝えていきたい」と語った。

現地では同市の玉浦中の生徒たちと一緒に給食を食べるなどして交流。震災直後から同校の生徒たちは避難所の運営などのボランティアに積極的に参加しており、富丘中の牧野絵里さん（2年）は「できることを見つけて、行動する勇氣を見習いたい」と、現地での経験を今後の生活に生かす決意を述べた。

武田会長は「子どもたちは被災地で頑張っている人たちの活動を知った。学校の修学旅行でも被災地訪問を考えてもらえれば」と訴えていた。

2013年11月6日 北海道新聞



「勇気もらった」

千歳セントラルRC

中学生10人が被災地訪問 様子や心境報告

千歳セントラルロタリークラブ(RC)、武田伸也会長は、市内の中学生を対象に実施した「宮城県岩沼市千年希望の丘体験ツアー」の報告会を5日、ベルクラシックリオン(錦町)で開いた。参加した中学生10人が、東日本大震災の被災地を実際に訪れ、現場で感じたことや訪問後の心境の変化などを、RC役員や家族、各中学校の校長らに報告した。

同事業は、被災地の様子を11日から12日の日程で、大人数の参加を受けた小学生、中学生が自身の目で見て、一施、仙台空港から約10時間のバスを乗りこえたほか、震災の震災の記憶を次世代につない、平洋沿岸に位置する岩沼市を、がれきをまみれて長く1千年でいびと企画された。10月、訪れ、中学校や、企業、津波、希望の丘で植樹活動をし



被災地訪問後の心境を語る生徒

の記憶を次世代につない
希望の丘「体験ツアー」報告会

14年度から減額した上で、

報告会では、ツアー参加の中学生が、被災地を訪問した際の様子や、震災の記憶を次世代につない、平洋沿岸に位置する岩沼市を、がれきをまみれて長く1千年でいびと企画された。10月、訪れ、中学校や、企業、津波、希望の丘で植樹活動をし

宮古島にミサイル陸揚げ

中国軍けん制、離島防衛訓練で

自衛隊は6日午前、沖縄県、宮古島に初めて陸自の地对空ミサイルを陸揚げした。ミサイル部隊は島内の宮古島分屯基地を利用し、対艦戦闘訓練を始めた。



おそろいの帽子をかぶってイベントに参加する園児たち

18日就職支援セミナー

「北海道でのものづくり」テーマに

千歳科学技術大学や千歳工業クラブ、千歳市が主催する就職支援セミナーが18日午後1時15分から、同科大で開かれる。千歳工業クラブ代表幹事でアンソーエレクトロニクス代表取締役の杉本正和さんが講師を務め、「北海道でものづくり」をテーマにした。千歳市が主催する就職支援セミナーが18日午後1時15分から、同科大で開かれる。千歳工業クラブ代表幹事でアンソーエレクトロニクス代表取締役の杉本正和さんが講師を務め、「北海道でものづくり」をテーマにした。

2013年11月22日(金) ※ちゃんとの配布は、木・金曜日の2日間です。※配布地域内で配布モレがございましたらお届けしますので、お気軽にご連絡ください。☎27-0911 ちゃんと編集部

千歳・恵庭エリアの生活情報紙「Chanto」
2013.11.22
毎週金曜日発行 67,000部
発行/株式会社メディアコム
http://chanto.biz

第377号 無料

アパマンショップ お部屋さがしは
株式会社 駿河
SURUGA アパマンショップ 株式会社 駿河 賃貸及び管理
土地・建物・アパート・マンション 賃貸・売買 22-1555
■千歳店 千歳市千代田南16丁目7番地 ☎22-1555
■恵庭店 恵庭市住吉町1丁目3番3号 ☎33-1555
西小牧店/西小牧中央店
http://suruga.cbiz.co.jp

広告の掲載・チラシ折込のお問い合わせ先 ☎0123-27-0911

2013年11月22日 生活情報紙ちゃんと

千歳セントラルロータリークラブ主催
「宮城県岩沼市 千年希望の丘」体験ツアー」報告会

「震災を忘れることなく、
できることを考えたい」





千歳セントラルロータリークラブ(武田伸也会長)はこのほど、市内中学生を対象に実施した「宮城県岩沼市 千年希望の丘」体験ツアー」の報告会をベルクラシックリアンで開催しました。報告会にはツアーに参加した中学生とその家族を含む総勢66人が出席。震災被災地を訪れて感じたこと、学んだことを報告しました。

この体験ツアーは東日本大震災の記憶を次代につなぐと、同クラブが企画して参加者を募集。選挙の結果選ばれた市内中学校の1年生から3年生まで10名が、10月11日から1泊2日の日程で宮城県岩沼市を訪れています。

報告会の冒頭、武田さんは「すべてが衝撃だった」という同2年の谷駿之介君は「津波が二階まで押し寄せた学校の中に入り、全身がさわさわしたと生々しく報告。青葉中は「被災地の人たちは悲しい過去を生きながら今を生きていける。私たちは震災を忘れることなく、少しでもできることを考えていきたい」と貴重な体験を振り返りました。

報告会を次世代につなぐ
「千年希望の丘」体験ツアー」報告

